

## 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会 [第 12 回]

令和 2 年 12 月 25 日(金) 午後 7 時 00 分  
松川町役場 2 階 大会議室

### 1. 開 会

### 2. あいさつ

- ・町長
- ・ J R 東海
- ・長野県

### 3. 会議事項

(1) 委員長の選出について

(2) 飯田市・喬木村の公共事業における発生土運搬について [別冊資料]

(3) 発生土運搬に係る地元説明会の開催状況について [P 4～11 参照]

(4) 生田地区発生土置き場候補地の状況並びに新たな発生土活用先について

[P 12 参照]

### 4. そ の 他

### 5. 閉 会

## 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会 委員構成

(敬称略、順不同)

| 区分  | 氏名    | 所属役職等                  | 備考         |
|-----|-------|------------------------|------------|
| (1) | 大蔵 秋利 | 古町区会                   |            |
| (1) | 高坂 義宏 | 上新井区会                  |            |
| (1) | 西條 和男 | 名子区会                   |            |
| (1) | 饗庭 光雄 | 大島区会                   |            |
| (1) | 大澤 今男 | 上片桐区会                  |            |
| (1) | 清水 正育 | 福与区会                   |            |
| (1) | 唐澤 功  | 部奈区会                   |            |
| (1) | 下澤 洋貞 | 生東区会                   |            |
| (2) | 米山 俊孝 | 松川町議会 推薦               |            |
| (2) | 川瀬八十治 | 松川町議会 推薦               |            |
| (2) | 黒澤 哲郎 | 松川町議会 推薦               |            |
| (3) | 橋爪 和也 | 自然環境関係識見者              | 松川町環境審議会委員 |
| (3) | 寺沢 秀文 | 不動産関係識見者               |            |
| (4) | 松下 敏章 | 松川町農業委員会 会長            |            |
| (4) | 熊岡 正志 | JA みなみ信州松川支所 経営委員長     |            |
| (4) | 小澤 文人 | 松川町商工会 会長              |            |
| (4) | 中島 芳夫 | 松川町商工会 建設業部会長          |            |
| (4) | 宮下 彰  | 南信州まつかわ観光まちづくりセンター 理事長 |            |
| (4) | 北林 誠  | 松川町交通安全協会 会長           |            |
| (4) | 井上美智恵 | 松川町交通安全協会 女性部長         |            |
| (4) | 小林 幸彦 | 松川町交番 所長               |            |
| (4) | 松浦 善文 | 松川町教育委員会               |            |
| (5) | 松下 正博 | 公募委員                   |            |
| (5) | 田中真喜子 | 公募委員                   |            |

(1) 区会の代表者等 (2) 町議会議員 (3) 識見を有する者 (4) 関係団体の代表者等  
(5) 公募委員 (6) その他町長が必要と認めた者

[その他]

※要綱第5条第2項に基づき、長野県からアドバイザーとして関係部署職員等の出席を求める。

※同規定に基づき、JR東海等に対し説明者の出席を求めることを予定している。

## (主催者側) 出席者名簿

※敬称略

### ○J R 東海 (東海旅客鉄道株式会社)

中央新幹線建設部 名古屋建設部

担当部長 古谷 佳久

中央新幹線 長野工事事務所

所 長 平永 稔

主 席 齋藤 寛泰

主 席 工藤 優翔

大鹿分室長 太田垣 宏司

大鹿分室係長 三品 雄亮

### ○長野県

飯田建設事務所 リニア整備推進事務所

調整課長 折井 克壽

課長補佐 斉藤 健郎

担当係長 平 哲聡

### ○飯田市

リニア推進部

部 長 細田 仁

リニア推進課長 下平 泰寛

### ○喬木村

高速交通対策課

課 長 井澤 広美

計画調整係長 吉川 慎太郎

主 査 白井 智也

### ○松川町

町 長 宮下 智博

副町長 久保 友二

・事務局

建設課長 小沢 雅和

リニア対策室長 佐々木 保

・オブザーバー 全課長・局長

### (3) 発生土運搬に係る地元説明会の開催状況について

1) 開催日： 10月28日～12月21日現在 [9回開催]

2) 対象地区等：  
・沿線5地区（古町・上新井・名子・大島・上片桐地区）  
・沿線事業所  
・小中学校PTA代表、保育園保護者会代表 [出席者総数 256名]

3) 出された意見、要望、提案等（まとめ）

#### ■道路について

##### ○運搬ルート

- ・分散ルートとして飯田市方面へは座光寺スマートインターを、上伊那方面へは駒ヶ根インターを使って。願わくば松川インターはゼロに。
- ・下小松川橋から上新井交差点までの間も分散を考えて。
- ・下小松川橋南交差点付近はどうしても集中するところだが、会社ばかりでなく住民、子供も住んでいるので、もう少し緩和する検討を。
- ・東浦～松川インター間は観光産業道路。観光シーズンは除いて。
- ・松川インター大鹿線の沿線には町の主要施設が並び、毎日多くの町民が利用しており、このルートを8年以上に渡り作業用道路として使用することは町民へ犠牲を強いることになる。
- ・松川インター大鹿線にこだわり続けることはJRにとって得策ではない。外した案を提案して。
- ・松川インター大鹿線に往復300台のダンプが走るということは到底受け入れられるものでないし、想像するだけで恐ろしい。
- ・町の中心部（松川インター大鹿線）を300台も通ることのないような方向で考えて。
- ・松川インター大鹿線沿線は建物密集地であり振動への不安が大。配慮を。
- ・ダンプが多く通ることによって、建物への影響が不安。
- ・新井の商店街を歩いている人は老人や子供が多く非常に恐怖感を感じているので、出来る限り台数を削減して。
- ・上新井交差点から弥久司交差点、上新井交差点から八十二銀行前交差点の間など、信号機の間隔を調整しスムーズに流れるようにして渋滞緩和対策を。
- ・町道洞新線の両方向通行はしないように。
- ・町道鶴部線を使用する場合の不安。⇔町道鶴部線への分散も協力を求めるべき。
- ・片桐松川河川内へ仮設道路を造れば、河川内の樹木除去もでき河川整備も合わせてできる。
- ・神護原神社下の交差点は子供たちの横断も多い。特に気を付けて。

- ・降雪・凍結時の対応。チェーンによる痛みの補修は速やかに。坂道への塩カル散布。
- ・保育園の送迎時間とダンプの運行時間が重なり混み合うことが想定されるので対策を。
- ・子供たちの通学路となる東浦交差点に誘導員の設置を。
- ・町の中心部を長年に渡り走るのは町にとって大変な負担。避けるルートに再考を。
- ・道路の事前調査・確認してから運行を。
- ・二輪車の運行に際して、粉塵や路面影響が懸念されるので、定期的な道路の清掃や補修を行って。
- ・上伊那へ持っていく土をなぜわざわざ道路未整備が多い松川町を通らなければならないのか理解できない。

### ○道路改良など

- ・小松川橋下流の片桐松川左岸へ道路を新設
- ・宮坂交差点は非常に危険を感じているので、信号機設置の改良を早期に行い安全対策を。
- ・的場橋の二車線化
- ・町道護岸線の抜本的な改良
- ・町道洞新線から国道への出口は狭くて急勾配。対策を。
- ・上新井交差点に右折レーンを設置
- ・中川村を北上するルート（県道北林飯島線の拡幅改良）の早期完成
- ・国道 153 号の林叟院から龍ノ口の間は大雪が降ると竹がしなり渋滞を起こす。また舗装路面も悪い。対応を。
- ・竹村工業対岸の片桐松川右岸道路の恒久的な整備を。（J R 飯田線下にボックス等）
- ・大鹿村のように松川町においても大きなインフラ整備を。
- ・ガードレールの設置
- ・的場橋から国道へ出るところの正面にあるカーブミラーを双面鏡に。
- ・道路を改良するなど早急に考えて。
- ・来年の下期から 450 台が走り出すことに対し、早急に計画中や検討中の道路の工事を始めてもらうことが町民の願い。
- ・道路改良は期間を定めて進めて。

### ○その他

- ・ダンプが通ること、抜け道、裏道へ迂回する一般車が増え子供たちの通学路が危険になるので対策を。
- ・双葉保育園に歩いて通う子供たちも多いので誘導員の配置を。

### ■環境対策について

- ・降雪時に撒く塩カル散布量が多くため環境への影響が懸念される。大気環境に注視して。

## ■ダンプについて

### ○運行

- ・中央小学校の授業中の騒音に考慮して。
- ・夕方5時はまだ子供が帰る時間帯。また冬季は日が暮れるのも早いので、冬場は午後3時頃までにすとか、季節ごとに時間帯を配慮して。
- ・冬場は夕方の終了時間を早める配慮を。できなければ日没から終了まで誘導員を配置して。
- ・夕方5時以降は町内を通らないように。
- ・車両間隔の調整を具体的に行って。
- ・降雪の際は無理のない対応を。
- ・松川インター大鹿線と町道神護原線との交差点にあるカーブミラーが見つらいので注意を。特に夕暮れ時。
- ・朝晩の仮置き場までの出退勤時間帯が一般の通勤通学時間と重なる影響の調整を。
- ・ダンプの出退勤ルートを運搬ルートと同一に。(通学への不安)
- ・現計画では、新井商店街と上大島のりんご農家は死活的な問題となり、壊滅的な経済的ダメージを受けることをJRは認識して。ダンプしか通らない町になってしまう。

### ○装備

- ・車両は排ガス規制車両で。
- ・車両にドライブレコーダー、危険個所を表示するライブカメラ的なものの装備を。
- ・車両を一括管理できるGPS機能的なものを設置して。
- ・助手席側足元の安全窓にはステッカーは貼らないで。(視界の確保)
- ・車両の保険加入を確実にして。

### ○運転手

- ・運転手への講習指導(初回、定期的)の徹底
- ・運転手への教育実施等の有効性について、行政機関による第三者監査を行って。
- ・遠方(県外)より入ってこられる運転手に対する新型コロナウイルス対策の徹底
- ・運転手に横断歩道では一時停止することの徹底を。
- ・ダンプのコンビニ利用は控えて。
- ・火災の際などの緊急車両通行への配慮を。

## ■説明会への要望

### ○交通シミュレーション

- ・現在の交通量と今後増えていく経過を定量的なシミュレーションで示して。

- ・発生土の運搬車両のみでなく他の工事関係車両の運行台数も合わせたシミュレーションを。
- ・渋滞に関するシミュレーションを。

### ○説明内容

- ・資機材の運搬も含めて片道何台という表現ではなく、具体的にこの地点で何分に何台通るという説明を。
- ・資料中のマークは過去に死亡事故や重大事故があったところも明記して。また、交通事故は交差点の数と往来する車両の掛け算で正比例し加速度的に増えていく。そういったデータも分析して検討を。
- ・問題は松川インターから高速に入ること。伊那の他に決まっているところがあるなら示して。
- ・道路改良など総体的にいつまでにどこまでやるのか示して。

### ○その他

- ・実走試験的なこと（空のダンプを走らせる）をやってもらい、実際に体感することはできないか。
- ・運行後は騒音、振動、排ガスなど定期的に測定と、合わせて台数の実績報告を行う地元説明会を年一回もしくは二回程度行い、意見交換の場を設けて。
- ・今後の具体的な対策をロードマップ的に示して。
- ・本説明会を受けて今後どのように進めていくのか知らせて。

## ■その他

### ○交通量等調査

- ・交通量調査は大きな交差点だけでなく、選果場付近など数か所で実施し、極力減らす方法あるいは時間帯を変えるなどの検討を。
- ・通学する児童、生徒の通行調査も。

### ○管理体制

- ・事故やトラブルを懸念して、ダンプの総括的な管理者の徹底を。
- ・苦情などの連絡先窓口の徹底を。
- ・保育園、小中学校から意見を伝えられる窓口を作って。
- ・国道沿いに会社があり社員の車が道路沿いに駐車してあるが、もしダンプの通過による飛び石や汚れが飛散し社員の車が傷ついた場合の相談窓口を。
- ・計画道路の沿線にはいくつもの障がい者施設があり、利用者の多くは徒歩で通勤や付近を歩いている。心配事が出てくると思うので相談窓口を。
- ・会社の前を往復通ることにより営業に支障が出た場合、説明会とは別で相談に乗ってもらいたい。
- ・現状や計画の情報を随時流して。
- ・未来を担う子供たちの安全確保を第一優先で考えて。

- ・運行が始まった際、その日にどこに何台ダンプが通るかなどの情報が表示される仕組みを。難しいようであれば、計画ではこの間ほどのくらい通るとか、飯田下伊那あるいは県内のどこへ何台運ぶといったことを松川町内だけでなく連携して広く表示もらえる仕組みづくりを。

#### ■町への意見

- ・前河原道路を一年でも早く完成させて。
- ・河川整備や道路整備、再開発事業など残土の活用とセットで出してもらおうと理解しやすい。
- ・民間でも発生土を気軽に活用できるよう、町において仮置き場を設けて。
- ・デメリットの見返りとしてメリットは求めないのか。例えば、使う道路を優先的補修してもらおうとか、ダンプ一台につき金銭を何%もらおうとか。
- ・町が検討している候補地に期待する。
- ・市街地にとって壊滅的な事業を町ではどう考えているのか。
- ・このように重要な会議に町長が出てきて説明すべき。

#### 4) 今後の予定

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1月12日(火)   | 名子地区②説明会            |
| 1月20日(水)   | 商店街経営者との意見交換会       |
| 1月下旬   | 沿線5区会代表者との調整会議(第3回) |
| 2月中旬   | 町リニア対策委員会(第13回)     |
| 2月下旬頃より3月末までに2回目の説明会(町全体を対象)を開催<br>※1回目の説明会を受けてJRより対応策等を説明 |                     |

\*町においても並行して、これまで地元説明会などでいただいたご意見、ご要望などを踏まえ、本日いただく町リニア対策委員会の皆様、また議会リニア対策特別委員会の皆様などのご意見をお聞きし、JR東海への要望事項をまとめてまいります。



◆各説明会開催状況

| 地区名（参加者数）開催日時、会場   | 出された意見、要望、提案等  |
|--|--|
| <p>大島地区（40名）<br/>10月28日（水）/18時00分<br/>上大島地区公民館</p>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・東浦交差点から松川インターまでの区間を分散することもできない中、観光産業道路への配慮を。観光シーズンを除いて考えてもらいたい。座光寺スマートインターを利用することも考えて。</li> <li>・同区間は上記のように観光道路でもある中、保護者としてはガードレールの設置を望みたい。</li> <li>・ダンプの排ガス規制等を要望。</li> <li>・現状の交通量調査について、インター下信号付近、選果場付近など数か所の確認を希望。特定な場所・時間ではなく長い目で何点か何日かで通行量を見てもらい、極力減らす方法あるいは時間帯を変えるなどの検討を。また、通学する児童・生徒の通行調査も実施して。</li> <li>・降雪・凍結時期の城山の坂道、下垣外から登ってくる坂道への対応を。</li> <li>・発生土運搬車両だけでなく、他の関係車両の運行台数も合わせて説明すべきでは。それらを含めたシミュレーションを示して。</li> <li>・ダンプ運転手への講習指導（初回、定期的）の徹底を。</li> <li>・ダンプが朝晩現場までと帰社する時間帯が通勤通学時間と重なることへの不安。</li> <li>・遠方（県外）より入ってこられる運転手に対する新型コロナウイルス対策の徹底を。</li> </ul>   |
| <p>上片桐地区（27名）<br/>11月5日（木）/18時30分<br/>上片桐改善センター</p>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・町道鶴部線を使用することになった際への不安。</li> <li>・ダンプの通勤ルートを運搬ルートと同様にできないか（通学への配慮）。</li> <li>・片桐松川の左岸道路の新設を強く望む。また、竹村工業対岸の片桐松川右岸道路の整備を恒久的に望む。</li> <li>・駒ヶ根インターも使って。</li> <li>・事故やトラブルを懸念して、ダンプの総括的な管理者の徹底を。</li> <li>・町道護岸線の抜本的な改良を望む。</li> </ul>  |
| <p>古町地区（22名）<br/>11月17日（火）/19時00分<br/>松川町役場</p>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・的場橋から国道へ出るところの正面に設置のカーブミラーが高森側にしかないので双面鏡に。</li> <li>・的場橋を拡幅し、すれ違いができるようになってから運搬してもらいたい。</li> <li>・渋滞に関するシミュレーションを。</li> <li>・降雪時はチェーンによって路面が相当に傷むことが想定されるので、その際は速やかに補修を。また、坂道へは塩カル散布を要望。</li> </ul>  |
| <p>上新井地区[第1回]（28名）<br/>11月24日（火）/19時00分<br/>上新井地区公民館</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・東浦－インター間の現在の交通量と今後増えていく経過を定量的なシミュレーションで示して。</li> <li>・町に対し）前河原道路について、従来どおり進めるのではなく、台数を低減させるために一年でも早く完成させるために工事計画を立ててJRと交渉すべき。</li> <li>・上新井交差点の改良について、地権者として測量・調査は了承したが、計画によっては反対する。</li> <li>・松川インター大鹿線と町道新井西線との交差点（宮坂交差点）について、現状見通しが悪く危険なので安全確保を。</li> <li>・渡場交差点から中川村を北上するルート（県道北林飯島線の拡幅改良）を完成させ、松川インターからではなく駒ヶ根インターから乗せていただきたい。総体的にいつまでにどこまでやるのか示して。</li> <li>・今日のような会議をどのように持ち、町、議会とどのように話を詰めていくのか、緻密に知らせて。</li> <li>・町に対し）市街地にとって壊滅的な事業となることを町ではどのように考えているのか。</li> <li>・ダンプが増えることで降雪時に撒く塩カル等の散布量が多くなる。それにより環境への影響が懸念されるので大気環境に注視して。</li> </ul>   |
| <p>名子地区[第1回]（43名）<br/>11月26日（木）/19時00分<br/>松川町役場</p>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路に凹凸など傷んだところも見受けられるので、事前に調査・確認してから運行を。</li> <li>・町道古町境の沢線の神護原神社下の交差点は子供たちの横断も多い。特に気を付けて。</li> <li>・ダンプの性能について、排ガス規制車両で。</li> <li>・町の中心部を長年に渡り走るといのは町にとって大変な負担。ここを避けるルートの再検討を。</li> <li>・下小松川橋～まつかわ大橋までの間に片桐松川の河川内へ仮設道路を造れないか。そうすると河川内の樹木除去もでき河川整備も合わせてできる。</li> <li>・ダンプ車両にドライブレコーダー、危険個所を表示するライブカメラ的なものの装備を。できれば車両を一括管理できるGPS機能的なものを設置して。</li> <li>・夕方5時以降は町内を通らないように。通れないと思ったら現場で待機を。</li> <li>・松川インター大鹿線の沿線は建物密集地であり振動への不安が大きい。それに対する配慮を。</li> <li>・町道鶴部線を使うことの検討は。</li> <li>・町に対し）デメリットに対しメリットの考えは。例えば、使う道路を優先的補修、ダンプ一台につき寺銭を何%もらうとか。</li> <li>・冬場は夕方の終了時間を早める配慮を。できなければ日没から終了まで誘導員を配置するなどして。</li> <li>・民間でも発生土を気軽に活用できるよう、町において仮置き場を設けて。</li> <li>・連絡先窓口の徹底を。</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
| <p>上新井地区[第2回] (29名)<br/>12月4日(金)/19時00分<br/>上新井地区公民館</p>             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・車両間隔の調整を具体的に行って。</li> <li>・現計画の片道300台、往復600台だと新井商店街と上大島のりんご農家にとっては死活的な問題となり、壊滅的な経済的ダメージを受けることをJRは認識して。本当に550台が通るとなるとダンプしか通らない町になってしまう。</li> <li>・マークは過去に死亡事故や重大事故があったところも明記して。また、交通事故は交差点の数と往来する車両の掛け算で正比例し加速度的に増えていく。そういったデータも分析して検討を。</li> <li>・町道洞新線の両方向通行はしないように。</li> <li>・運行後は騒音、振動、排ガスなど定期的に測定と、合わせて台数の実績報告を行う地元説明会を年一回もしくは二回程度行い、意見交換の場を設けて。柔軟な対応を。</li> <li>・今回の話は町全体で協力し合う問題。町道鶴部線への分散も協力を求めるべき。</li> <li>・朝晩の大鹿村への通勤ダンプが増えることで一般の通勤車両への影響の調整を。</li> <li>・現状や計画の情報を随時流してもらいたい。</li> <li>・上伊那へ持っていく土をなぜわざわざ松川町を通る必要があるのか理解できない。松川町内の道路は未整備なところばかりだ。</li> <li>・飯田市方面へは座光寺スマートインターを、上伊那方面へは駒ヶ根インターを使って。願わくは松川インターはゼロに。</li> <li>・道路の改良は期間を定めて進めてもらいたい。</li> <li>・町道洞新線、町道鶴部線を使わない安全策として片桐松川左岸へ道路を新設して。</li> <li>・上新井交差点に右折レーンを設置して。</li> <li>・下小松川橋から上新井交差点までの間も分散を考えて。</li> <li>・上新井交差点から弥久司交差点、上新井交差点から八十二銀行前交差点の間など、信号機の間隔を調整しスムーズに流れるようにして渋滞緩和対策を。</li> <li>・降雪の際は無理のない対応を。</li> <li>・国道153号の林叟院から龍ノ口の間は大雪が降ると竹がしなり渋滞を起こす。また舗装路面も悪い。早い段階で対応を。</li> </ul>  |
| <p>小中学校PTA代表、<br/>保育園保護者会代表 (40名)<br/>12月10日(木)/19時00分<br/>松川町役場</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンプが通ることによって裏道へ回る車が増える。それにより幹線道路以外での危険性が出てくるので対策を。</li> <li>・保育園への送迎は朝8時30分から9時頃。ダンプの運行時間と重なり混み合うことが想定されるので対策を。</li> <li>・子供たちの通学路となる東浦交差点に誘導員の設置を。</li> <li>・抜け道、裏道へ迂回する一般車が増え子供たちの通学路が危険になるので対策を。</li> <li>・名子中央保育園方面からの出口となる松川インター大鹿線と町道神護原線との交差点について、カーブミラーがあるが見づらい状況なので配慮を。特に夕暮れ時。</li> <li>・ダンプ運転手のコンビニ利用は控えてもらいたい。</li> <li>・双葉保育園に歩いて通う子供たちも多いので誘導員の配置を。</li> <li>・運転手に対する教育実施等の有効性について、行政機関による第三者監査を行って。</li> <li>・ダンプの助手席側には足元に安全窓があるが、歩行者確認のためにもそこにはステッカーは貼らないで。</li> <li>・大鹿村の2本のトンネルのように松川町においても大きなインフラ整備を行ってもらいたい。</li> <li>・未来を担う子供たちの安全確保を第一優先で考えて。</li> <li>・今後具体的な対策をロードマップ的に示して。</li> <li>・保育園、小中学校から意見を伝えられる窓口を作って。</li> <li>・(資機材の運搬も含めて) 片道550台という表現ではなく、具体的にこの地点で何分に何台通るという説明を。</li> <li>・松川インター大鹿線沿いに中央小学校があり、授業中の騒音に考慮して。</li> <li>・分散ルートとして、駒ヶ根インター、座光寺スマートインターへ回すルートも検討を。</li> <li>・ダンプの通勤ルートについて、運搬ルートと変えてしまうと二重の対策が必要となるので、同一ルートにするよう考慮を。</li> <li>・火災の際などの緊急車両通行への配慮を。</li> <li>・運行が始まった際に、その日にどこに何台ダンプが通るかなどの情報が表示される仕組みを。難しいようであれば、計画ではこの間はどのくらい通るとか、飯田下伊那あるいは県内のどこへ何台運ぶといったことを松川町内だけでなく連携して広く表示もらえる仕組みを。</li> <li>・車両の保険加入を確実にするなど事故の際の対応の事前準備を。</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
| <p>沿線事業所代表[第1回] (16名)<br/>12月17日(木)/19時00分<br/>松川町役場</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・町道洞新線から国道への出口は狭くて急勾配。対応を。</li> <li>・夕方5時はまだ子供が帰る時間帯。また冬季は日が暮れるのも早いので、冬場は午後3時頃までにするとか、季節ごとに時間帯を配慮して。</li> <li>・会社の前を往復通ることによって営業に支障が出た場合、説明会とは別で相談に乗ってもらいたい。</li> <li>・下小松川橋南交差点付近はどうしても集中するところだが、会社ばかりでなく住民、子供も住んでいるので、もう少し緩和する検討を。</li> <li>・新井の商店街を歩いている人は老人や子供が多く非常に恐怖感を感じているので、出来る限り台数を削減して。</li> <li>・宮坂交差点は非常に危険を感じているので、信号機設置の改良を早期に行い安全対策を。</li> <li>・ダンプが多く通ることによって、建物への影響が不安。</li> <li>・国道沿いに会社があり社員の車が道路沿いに駐車してあるが、もしダンプの通過による飛び石や汚れが飛散し社員の車が傷ついた場合の相談窓口を。</li> <li>・ダンプ運転手に横断歩道では一時停止することの徹底を。</li> <li>・計画道路の沿線にはいくつも障がい者施設があり、利用者の多くは徒歩で通勤や付近を歩いている。心配事が出てくると思うので相談窓口を。</li> <li>・二輪車の運行に際して、粉塵や路面影響が懸念されるので、定期的な道路の清掃や補修を行って。</li> <li>・来年の下期からは450台が走り出すということに対し、早急に計画中や検討中の道路の工事を始めてもらうことが町民の願い。</li> </ul> |
| <p>沿線事業所代表[第2回] (11名)<br/>12月21日(月)/19時00分<br/>松川町役場</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・松川インター大鹿線の沿線には町の主要施設が並び、毎日多くの町民が利用しており、このルートを経年以上に渡り作業用道路として使用することは町民へ犠牲を強いることになる。</li> <li>・問題なのは松川インターから高速に入ること。伊那の他に決まっているところがあるなら示して。</li> <li>・実走試験的なこと（空のダンプを走らせる）をやってもらい、実際に体感することはできないか。</li> <li>・松川インター大鹿線にこだわり続けることはJRにとって得策ではない。外した案を提案して。</li> <li>・松川インター大鹿線に往復300台のダンプが走るということは到底受け入れられるものでないし、想像するだけで恐ろしい。</li> <li>・道路を改良するなど早急に考えて。</li> <li>・町の中心部（松川インター大鹿線）を300台も通ることのないような方向で考えて。</li> <li>・町に対し）河川整備や道路整備、再開発事業など残土の活用とセットで出してもらおうと理解しやすい。</li> <li>・町に対し）このように重要な会議に町長が出てきて説明すべき。</li> <li>・町に対し）町が検討している候補地に期待する。</li> </ul>  |

#### (4) 生田地区発生土置き場候補地の状況並びに新たな発生土活用先について

##### ① 発生土置き場候補地《丸ボッキ地籍》の検討状況について

###### ■経過（令和2年度）

|                                     |  |
|-------------------------------------|--|
| 令和2年4月2日                            | 生東区と町長との意見交換会において、生東区より町へ申し出<br>1) 丸ボッキ候補地への発生土の受け入れについては、すべてを町に一任したい →町の主導で検討を行っていく<br>2) 県道22号線の改良・安全対策等についても町に一任したい →町で対応していく |
| 4月13日                               | 町は、福与区、部奈区と町長との意見交換会において、4/2の生東区との意見交換会での内容を報告説明   |
| 8月27日                               | 町は、生東区リニア対策特別委員会において、庁内での検討の結果、「生田3区の会議が進まない中、これ以上生東区主体による事業推進は難しい。町として総合的に判断」し、取り下げを提案  |
| 生東区リニア対策特別委員会 → 生東区会において協議【取り下げを承認】 |  |
| 11月27日                              | 生東区より町へ取り下げ書を提出<br>○取り下げの理由<br>県道22号線の道路改良を条件に、丸ボッキ地籍への発生土受け入れを検討してきましたが、生東区の事業として進めることは難しいと判断し、今後の対応については事業の全てを町に一任することとしたため。   |
| 11月30日                              | 生東区リニア対策特別委員会を解散   |
| 12月3日、8日                            | 町は、部奈区、福与地区リニア対策委員会へそれぞれ取り下げ書提出の報告と説明<br>☞合わせて、平成30年11月26日の生田3区打合せ会議(第5回)における合意事項(丸ボッキ候補地について、生田3区で新たな組織を立ち上げて検討を行う)は無効となることを通知  |

###### ■今後

町では、この取り下げを受けて、町の主導において本候補地は改めて検討を行っていきます。

##### ② 新たな発生土の活用先について

###### ●現在、町において検討している活用先

- ・発生土の有効活用により町内インフラ整備や地域の活性化等を進めるため、庁内で検討を行い、地元代表者、関係者と協議を進めています。
- ・町内で有効な活用先を確保することにより、運搬ルートを分散し環境負荷を軽減するよう検討していきます。

## 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会設置要綱

平成27年12月8日  
告示第112号

(設置)

第1条 リニア中央新幹線建設工事計画に対し、情報を共有し、課題や対策等を検討するため「松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会(以下、委員会という。)」を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について検討し、町長に対し報告等を行う。

- (1) リニア中央新幹線建設工事に係る情報の共有に関する事項
- (2) リニア中央新幹線建設工事に係る課題や対策に関する事項
- (3) その他検討が必要と認められる事項

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者のうちから町長が委嘱し、委員30名以内の委員で構成する。

- (1) 区会代表
- (2) 町議会議員
- (3) 識見を有する者
- (4) 行政関係機関及び関係団体代表
- (5) 公募委員
- (6) その他町長が必要と認めた者

2 委員会に、委員長及び副委員長各1名を置き、委員の互選により決定する。

3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることを妨げない。

(会議)

第5条 会議は、委員長が招集し、議長となる。ただし、最初の会議は町長が招集する。

2 委員長は、会議において必要があると認めたときには、委員以外の者を会議に出席させ説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第6条 町長は、委員会とは別に個別に検討を要すると認めるとき、委員会の会議に諮って、専門委員会を設置することができる。

2 専門委員会は、町長及び委員会が必要と認める事項に関して、検討をし、報告等を行う。

3 専門委員会の委員は、町長が必要と認めた者を委嘱し、組織する。

(庁内幹事会)

第7条 町長は、リニア中央新幹線建設工事計画に対し、情報を共有し、課題や対策等を検討するため、庁内幹事会を設置するものとする。

2 庁内幹事会は、町長及び委員会が必要と認める事項に関して調査検討をし、報告等を行う。

3 庁内幹事会は、松川町職員のうちから町長が任命した者とし、委員長は副町長が、副委員長は建設課長がこれにあたるものとする。

(事務局)

第8条 委員会の事務局は、松川町役場建設課内に置く。

(補足)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、町長が別に定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

附 則(令和2年要綱第27号)

この要綱は、公布の日から施行する。

MEMO

Lined area for writing.

